



文京区
シンボルマーク



文の京
(ふみのみやこ)

区報 **ぶんきょう**

発行/文京区
編集/オリンピック・パラリンピック
担当
〒112-8555 文京区春日1-16-21
代表 ☎ (3812) 7111
<http://www.city.bunkyo.lg.jp/>

オリンピック・

パラリンピック

**こども
新聞**

人と比べず 自分に勝つ

こども記者の質問に、ついおいに答えるワイナイナさん



ランニング教室が昨年11月3日、六義公園運動場(本駒込6)で開かれ、オリンピックでケニア出身のエリック・ワイナイナさんにインタビューしました。

オリンピックマラソンメダリスト

エリック・ワイナイナさん

2021年(令和3年)

3月12日

第10号

各面の内容

2 サッカーミュージアム



4 ドイツのスポーツ事情

オリンピック・パラリンピックこども新聞は、こどもたちが記者になって取材や写真撮影に取り組み、みなさまにおとどける新聞です。

第10号は新型コロナウイルス対策の上、2020年12月までに取材した記事で構成しました。

小さな積み重ねが大きなことにつながる

ワイナイナさんはマラソンランナーとして、1996年のアトランタオリンピックで銅メダル、2000年のシドニーオリンピックで銀メダルを獲得。会ったときの印象は「笑顔がとても素敵な方だな」でした。ワイナイナさんは、小学校までの道のり10キロを毎日裸足で通い、当時所属

していたサッカー部と陸上部の大会で1位になった時初めて、「自分は足がはやいんだ」と知ったそうです。とにかく大切なのは、小さいことをつみ重ねが大きなことにつながるということ。今回、ワイナイナさん取材して、やはり陸上は楽しいなと思いました。【小6/小貫美佳】



ワイナイナさんに走り方を教わる子どもたち

電気、水道もなく 裸足でサッカー

ケニアでは小学校までおふく20キロを走って通っていたそうです。電気も水道もないので、平日は小学校から帰ってきてからお母さんやお父さんのお手伝いをして、暗くなる前に宿題をしていました。

お休みの日は、友達とサッカーを

したり、木にのぼったり、カバやワニがいる池で遊んだり。くつも、サッカーボールもないので、サッカーボールは自分たちで作って、はだしでサッカー。日本の生活とはまったくちがうので、私はいつてみたいと思いました。【小4/数田麻華】

ケニアでは片道10キロを走って通学

人の話を聞き 工夫して練習

私たちはワイナイナさんのランニング教室に参加し、インタビューをしました。ランニング教室では、「他の人と比べずに、自分に勝つことが大切」と教えてくれました。速く走るコツを聞いてみると、「練習のつみかさねや、自分から率先してやること」と言っていました。ワイナイナさんは、実は高校からマ

ラソンの世界へ入ったそうです。それまではサッカーをやり、ボールはビニールやひも、発泡スチロールで作っていたそうです。私はインタビューを通して「しっかりと人の話を聞き、自ら工夫して練習にはげむことが大事だ」と思いました。

【小5/洲巻文緒】

「自分は速い」高校から競技

ワイナイナさんはケニア出身のマラソン選手でした。ワイナイナさんは小さいころ、学校に行くために10キロも走ったそうですが、自分では、自分の足が速いとは思えなかったそうです。高校から足が速いとわかり、マラソンを始めました。

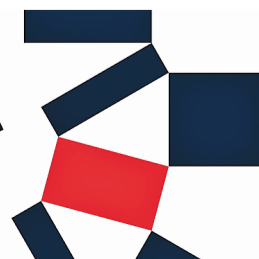
彼は、学校から帰ると、両親の手伝いをし、水をくんだりし

て、学校の宿題をやりました。学校が休みの日は、友達と遊びました。たとえば、ゾウやカバをおこらせてにげて、木にのぼったり、発泡スチロールを袋でつつんだボールでサッカーをしたりしたそうです。楽しそうですが、いろいろと大変だったそうです。

【小4/蔣雨彤】

教育プログラム

【ようい、ドン!】



TOKYO 2020



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

サッカーミュージアムを見学

日本サッカーの軌跡

文京区立文京区文京区本郷(こ)に行きました。無料フロアの地下1階と有料フロアの地下2階を見学することができました。



たくさんのトロフィーに驚く子ども記者



ワールドカップトロフィーのレプリカ

シャーレのレプリカ

地下1階に降りると、Jリーグ杯「シャーレ」のレプリカがあります。少し奥には日本サッカーの発展に貢献した「日本サッカー殿堂」の人の顔写真と説明がずらりと並んでいました。次に、地下2階の有料フロアを見学。まず目に飛び込んできたのは、青いユニホームを着て円陣を組むマネキンです。マネキンが着ているユニホームは、2002年男子ワールドカップで実際に使用されたものでした。しばらく進むと、ガラスケースの中に1足のスパイク(サッカーで使われるシューズ)が見えてきました。このスパイクは、元女子サッカー日本代表の澤穂希選手が、2011年ワールドカップ決勝戦で実際に使用したものです。使用した際に付いた土や芝などの汚れは、落とさずそのままです。

ほかにも貴重なものがたくさんあります。「サッカーを見ていない人にもサッカーミュージアムに来てもらって、サッカーに興味を持ってほしい」と案内してくれたスタッフは話していました。日本サッカーの軌跡をたどることができる、とても面白いところでした。
【小6/水島希】



選手の足形に宛集せてみる子ども記者

幸運に導くカラス

日本代表が外国のチームと初めて試合をしたのはいつでしょう。それは1917年5月9日で、この時の日本代表選手は選抜制ではなく、その時に一番強かった東京高等師範学校のチームが日本代表として出場しました。またサッカー協会では、カラスはえんぎがよく、みちびいてくれる動物とされ、3本足だそうです。「日本サッカーミュージアム」ではこのようにいろいろなことを知ることができます。
【小4/本間柚菜】

芝ついたままのスパイク

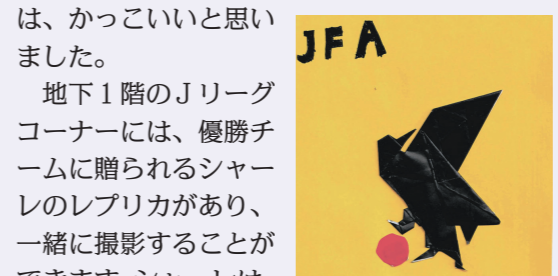
がついた状態のスパイクや、試合で使った汚れたスパイクが展示されています。これは、来場者に試合の様子を想像してもらおうと用意されているそうです。展示の土まにのせた思いが伝わってききました。また、日本サッカー協会の方に「日本代表のマークにカラスが入っているか聞いたところ、「日本神話に昔の天皇の道案内をした八咫鳥という3本足のカラスがいて、鳥は神聖な生き物となってから」と答えてくださいました。

た。そして、日本代表のマークの歴史をわかりやすく年表にしてみました。サッカーは、古代サッカーと現代サッカーに分かれています。古代サッカーは中国で、サッカーは動物の毛を詰め込んだ丸めたボールです。現代サッカーの発祥地はイングランドで、このころからルールが作られるようになりました。なぜなら、タックルをする人やボールを手で持ちパスする人がいたからだそうです。古代サ

ッカーと現代サッカーに分かれるくらい歴史があるけれど、サッカーはそれだけ昔から多くの人が大切に愛されているスポーツだと考えました。
【小4/小澤一葉】

降ってきた折り鶴

地下2階のフェアプレーというコーナーに驚くくらいのトロフィーが並んでいます。フェアプレー賞は、ファウルが少ないこと、相手のチームを尊敬している態度などを認められた賞です。Fの形になっているのは不思議だと思ったけれど、フェアプレーのFだとわかり、納得しました。このトロフィーをたくさんもらえる日本チームは、素晴らしいと思いました。ワールドカップコーナーには、たくさんの折り鶴が展示されていました。2002年、横浜国際総合競技場で、ワールドカップの決勝戦のフィナーレに会場に降ってきた折り鶴です。全国の小学生を中心に作られた折り鶴が約270万羽も集められたそうです。折り鶴が降ってくるの



JFA

は、かっこいいと思いました。地下1階のJリーグコーナーには、優勝チームに贈られるシャーレのレプリカがあり、一緒に撮影することが出来ます。シャーレは、直径55mm、重さは約6g。14個の円があり、よく見るとサッカーをしている人などいろいろな絵が細かく刻まれていて、驚きました。床には、たくさんの選手の足形がありました。ゴールキーパーだけは手形でした。足の大きさを比べたりして楽しめました。自宅に帰りインターネットで検索すると八咫鳥の折り方が出ていたので折ってみました。【小4/木村夏央】

身近な存在 共生の一步

「ともに、私たちが生きることをテーマにしたシンポジウムが10月14日、文京シビックホール小ホールで開かれ、子ども記者は出演者に質問しました。



山田拓朗選手(パラ競泳)



太田渉子選手(パラテニス)



前川楓選手(パラ陸上)



写真家の越智貴雄さん

選手を応援、楽しむ

第一部では、パラリンピックについて、山田選手、太田選手、前川選手、川楓選手の3人のパラリンピアンと写真家の越智貴雄さんが登場しました。

4人は一つ一つの質問に丁寧に応じました。太田選手は、海外と日本のパラリンピックや選手の方の違として、2010年のバンクーバー・パラリンピックの際に人々がオリピックとパラリンピックの両方と同じように認識し応援する雰囲気があったことや、パラリンピックだけではなくオリピックにも出場している選手もいることを挙げていました。

山田選手は「パラリンピックでのメダルについて、競技をすることやメダルを取ることで自己が共生社会につながるわけではありませんが、パラリンピックで選手が活躍し、メ

ディアを通して障がいを持っている人がたくさんいることを多くの人たちに知ってもらい、身近に感じてもらえるきっかけになればいい」と答えてくださいました。

東京大会を控えている中で、オリピックとパラリンピックは確かに異なる部分もありますが、「スポーツ」という共通の柱を中心にそれぞれの特徴を知り、両方の大会が同じように身近な存在として注目されてほしいと感じました。そして、観客やサポーターとしてパラリンピックの選手のパフォーマンスを応援し、楽しむことが共生社会の実現のための一歩になるのではないかと思います。

【大3/編集サポーター・橋本薫】

陸上の前川選手は、「同じ障がいでも、義足の使い方や、使っている義足自体が違います。だから、魅力がみんなちがうといえるので、東

京2020パラリンピックではそこに注目してほしいです」と話しました。義足で走ろうとする人や、ひざ折れとひざがカクンとなってしまったり、その恐怖とたたかっている、義足で走れるようになったり

障がいのある方をより多くの人に理解してもらうために、私たちが何ができるかを考えることが大切だと思っています。障がいのある方、障がいのない方とあらゆる機会を増やすことが大切だと思っています。このシンポジウムでもいろいろなことを学びました。また新聞でも障がいについて多く取り上げられています。他の人にも知らせることができると思

います。日本は他の国と比べて声かけが少ないと思うので、誰かが困っている時には助けられるようになりたいです。
【小6/石井たまき】

知ることで世界広がる

越智貴雄さんはパラアスリートを撮っている写真家です。僕は越智さんが撮った2012年ロンドン・パラリンピック大会の車いすバスケットボールの写りが好きです。「パラアスリートの一人一人の個性を表現するために、どのようなことを意識していますか?」とお聞きしました。越智さんは「知ることで世界が広がる。その知ることはどこから知るかが大切。視点が変わることで右だと思っていたことが実は左だったということもある」と答えてくださいました。思い込みをしないで新しい視点を持つという大切さを教えてもらいました。越智さんの写真は越智さんのホームページから見る事ができます。車いすバスケット選手のクモの糸のような手の動き、床についた車椅子の車輪の跡をぜひ見てください。
【中1/久保太太郎】



ロンドン・パラリンピック(2012年)で撮影した越智さんの写真 ©越智貴雄/カンパプレス

21年度 こども記者・編集サポーター募集

文京区オリンピック・パラリンピックこども新聞は、2021年度の新規のこども記者と編集サポーターを募集します。こども記者は、取材して記事を作成する文京区の小学生の方、編集サポーターは、こども記者の取材や編集のサポートを行う15歳から24歳までの方です。それぞれ取材や写真撮影に取り組み、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や文京区の魅力に興味をもってもらえるよう、タブロイド版のオリンピック・パラリンピックこども新聞を作ります。発行は年2回を予定。新聞折り込みのほか、区施設にも配布されます。取材の仕方、質問のコツ、記事の書き方、写真の撮り方などは研修で学びます。また、取材では研修で学んだことを生か

取材し記事に写真も

して質問をしたり、現場の様子が伝わるような写真を撮ったり、自分なりに工夫しながら記事を書きます。ぜひお申し込みください。こども記者&編集サポーターは、登録申込書を郵送または直接提出してお申し込みください。登録申込書は4月1日よりスポーツ振興課(シビックセンター17階北側)にて配布、または区のホームページよりダウンロードできます。 ※最終申込締切日: 6月末必着 ※登録証の発行には、申込書受領後3週間程度を予定しております。 ※申込受付開始: 4月1日

2020大会魅力伝えよう

参加上の注意 【こども記者】 ①必ず保護者の方の同意の上、お申し込みください。 ②取材にかかる交通費は、区が負担しますが、集合場所までの交通費は個人負担となります。 【編集サポーター】 ①満15歳以上25歳未満の区内在住・在勤・在学者を対象とします。 ※18歳未満の方は、必ず保護者の方の同意の上、お申し込みください。 ②取材サポート時は1日当たり500円の謝礼をお支払いします。 集合場所までの交通費は個人負担となります。

ドイツのスポーツ事情

失敗しても「ドンマイ」

文京シビックセンター
26階のスカイホールで昨
年12月19日、日本体育大
学の波多腰克晃先生にド
イツのスポーツ事情につ
いて取材しました。

部活よりクラブへ

僕はドイツの中学校や高校の部活動が日本とどのように異なるのか質問しました。そもそもドイツには部活動という概念がなく、放課後は地元のスポーツクラブで運動しているとのことでした。日本と違って仲間とのつながりも緩やかなのに、どうしてそのようなシステムが維持できるのだろうかという疑問に思いました。

【高3／編集サポーター・佐々木海夏翔】

勝ちにこだわらず

多様な国に興味を

波多腰先生のお話を聞いて、私が想像したことのないドイツの姿を知りました。例えばドイツの学校は午前中で終わって、午後はスポーツクラブなどに行くこと。国が違うから学校の時間は違うとは



波多腰先生の話をお聞きする様子

いえ、まさか午前中で終わるとは思いませんでした。ドイツについては他の取材などを通して、かなり知っている方だと考えていたのですが、知らないことが多かったです。話を聞けば聞くほど、知らないことが出てくるので、いろいろな国を知ることはいいいことだと思いました。

波多腰先生は「東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まっていますが、外国の新たな文化を受け入れることで、いろんなことに興味を持つことが大事」と言っていました。これからもいろいろな国に興味を持ち、いろいろなことを学びたいです。

【中2／横井千佳】

楽しむのが大切

ドイツ人のスポーツへの取り組みで興味を持ったことが3点あります。①どうしてドイツでサッカー

ーが人気なのか？②ドイツ人の考え方③日本選手のいいところ。先生の話を聞いて理由がわかりました。①はサッカーはボール一つででき、お金がかからず手軽でやりやすいからです。②はスポーツは楽しいという考え方が、ドイツの社会を支えており、また、スポーツの考え方に多様性があるからです。2022年冬季オリンピックと24年オリンピック開催都市の立候補に、住民投票で半数以上が反対しました。財政難だから、そのお金を障害がある人のスポーツセンターに使った方がいいという意見が多かったのです。③は指導者の意見を学ぶという態度や、聞く姿勢がいい、新しいことを吸収したがるところだそうです。年齢や障害の有無にとらわれずにみんながスポーツを楽しむことが大切と感じました。

【小4／松田隆之介】

努力した子を優先

日本体育大学の波多腰先生は自身のドイツ留学の経験を話してくださいました。

波多腰先生が小学生のソフトボールの試合を見学したときのことで打たなければ負ける、ここで打てば勝てる、という勝負どころで、現地の先生は上手な子を使わないのだそうです。重要なところでは努力している子を出していました。そして、その子が打てずに帰ってきて、皆、その子を責めないのです。落ち込んでいるその子を励ますのです。

私は時々、体育の授業などで、他の子が失敗するといらいらししてしまうことがあります。波多腰先生は、最初、「勝ちにこだわり過ぎない」と言っていました。ドイツの子も私たちは、「勝ちにこだわり過ぎない」

あるべき姿を教え

ドイツでは、野球は人気では下から5番目のスポーツです。準備が大変なためですが、人気を上げるために、勝ちにこだわるといことをあまりしません。いや、こだわりすぎないのです。あるべき姿を教えるため、「これなら勝てる」というときでも、あまり打てない子を出し、応援し、打てなくても励まします。そんなところ、私は感動しました。私も、運動会などの勝ち負けのあることでも、運動が苦手な人も応援し、勝てなくてもクラスで励まし合いたいです。

【小5／谷口夏海】

試合の合間にパスタ

ドイツでは、スポーツの人気ランキング1位がサッカーです。野球は下から数えて5位であり人気がありません。サッカーのほうが道具も少なく、手軽にできるからだと思います。ブラジルでは、空手が人気で

す。それぞれの国で好きなスポーツが違うことを知りました。

また、日本の選手は試合の合間に、おにぎりを食べたりしますが、ドイツではパスタを食べるそうです。オリンピックやパラリンピックでは、ドイツの選手が食べているものも、注目したいと思います。

ドイツの小学生は、午前中に学校が終わります。そのあとは、たくさん宿題をしたり、スポーツをしたりする時間があります。早く帰るのはいいのですが、給食が無いのは残念です。でも、自分がやりたいスポーツをしっかりやるのは素晴らしいです。

【小4／野間裕貴】

授業は午前中で終了

ドイツで1番人気のスポーツはサッカーで2番目はテニス、3番目はハンドボール、野球は下から数えて5番目で人気が無いそうです。波多腰先生はドイツの学校で野球を教えたことがあるそうです。学校は午前中で授業が終わり、部活と給食は無く、帰宅して課題をしたり、スポーツクラブでスポーツをしたりするそうです。午前中で授業が終わるのはうらやましいです。ドイツの学校へ行ってみたいと思いました。【小4／豊島悠太】



ジャーマンポテト作ってみた

いなと思ひながらむきました。炒めるのは楽しかったです。ジュースとよい音がして、ベーコンやバター、調味料のおいしそうな匂いがしてくるからです。

ジャーマンポテトは、短時間で簡単にできておいしいです。私は途中、何度も「味見」と言っていました。【小6／水島希】

私はドイツゆかりのジャーマンポテトを家で作りました。写真。昨年12月に学校の調理実習で作ったものです。

作り方は簡単。じゃがいもを一口大に、玉ねぎは薄く、ベーコンは2センチ幅にそれぞれ切ります。じゃがいもを2、3分ゆで、玉ねぎ、ベーコンと一緒に炒め、塩、こしょう、粉チーズなどで味付けして、お皿に盛り付けます。シンプルですが、我ながらおいしくできました。

じゃがいもの皮を包丁でむくのはたいへんでした。皮が厚くなり、もったいな